

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092100021		
法人名	一般財団法人 榛名荘		
事業所名	グループホーム榛名荘		
所在地	高崎市下室田町965-1		
自己評価作成日	28年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の事業所は、総合ケアセンター内にあります。同法人の訪問看護、介護、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所、半径1*。以内にはデイサービスが2か所あり、訪問看護とは医療連携をとっています。他事業所とも日頃から地域の方々の情報交換など密に行っています。又、認知症の方やその御家族に身近で親しみやすい相談場所になるように認知症相談窓口も開設し、財団内の病院窓口、福祉会館窓口等にもパンフレットを置き地域の皆様にPRを行なっています。10月には、地区のあんしんセンターと協力し、オレンジカフェの開催を予定しています。又、共用デイサービスは、開設して4年が過ぎ、地域のケアマネージャーや、行政関係者の方がたとも連携が図れる様になり認知症の方を介護されている御家族の精神的・身体的な負担の軽減に繋げられ、手助けが出来ていると実感しています。これから地域の中で、なくてはならない事業所になる為の支援を行なっていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者が暮らしを続けられるための支援、そして看取ることその他、地域に向けた認知症の理解や認知症の人が暮らせるための支援も視野にいれて考えており、昨年より認知症相談窓口を設置、今後はオレンジカフェ(認知症カフェ)の開設にむけて取り組んでいる。利用者を支援するうえにおいては、ADL(日常生活動作)や認知症のレベルの変化に伴い希望が変わることを理解し、いまの本人にとってのやりたいことを検討し支援している。また、法人内のサービス・研修・防災委員会への職員参加や年に一度の感謝祭の準備を通して、職員同士で意見交換やコミュニケーションをとる機会があり、そうしたなかで事業所内の定期的な環境美化活動が実践されている。あわせて、理念をもとに職員は個人目標を掲げ、3ヶ月毎に振り返りを行ない理念の実現に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目のつきやすい場所に掲示し、理念の意義を常に考え行動する様にしている。すぐはない行動が見られた場合、管理者をまじえ話し合いを行なっている。	理念をもとに、毎日のラジオ体操、ストレッチ、台所作業、レクリエーションをとりいれて、機能維持を図っている。管理者は、職員が理念の実践の具現化を図りやすいように、理念をもとに職場目標を考え、職員は職場目標をもとに個人目標を掲げて、3ヶ月ごとに振り返りを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路掃除をはじめ、祭り等の地域の行事への参加、地域の中学生、高校生のボランティアなどの受け入れをし、交流を図っている。	この地域に立地しているからこそ地域の住民を大切にするという考えから、年に一度の感謝祭開催時は、回覧板での案内の他、地域の商店に挨拶を行ないチラシを貼ってもらうなど、多くの参加を呼びかけている。また、日頃から近隣の商店を利用、道路清掃への職員参加、地域の祭りには花飾り作成に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口の開設をし、パンフレット等は、当財団病院窓口や福祉会館等に置き地域の方がたへPRをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告や話し合いを行い、出された意見などは記事録として記録し、全職員が目を通し参考にミーティング等で議題にし、サービスに活かしている。	運営推進会議では、地域住民の情報や事業所前の信号機設置の提案など、意見交換が行われている。会議への家族の参加は、年に一度、家族全員が集まるクリスマス会で代表を決め、代表が会議に参加している。会議の報告は、2ヶ月に1回のお知らせとともに報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支所の介護保険課の方がたに、共用デイサービスや、認知症相談窓口等のPR、介護保険更新時等に、ケアサービスの取り組みなどを伝え、連携を取っている。	支所に共用デイサービスの活動を説明し、紹介をいただいたり、あんしんセンターにオレンジカフェ開設の実現に向けて相談を行ったり、地域の受け皿となるべく取り組んでいる。年に1回、市の出前講座を依頼し、今年度は「心の健康」についての講演が行われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、緊急をやも得ない事情がない限り常に鍵を明けて置き、自由に入出入りして頂いている。	転倒事故等の予防のため、必要時のセンサーマットを活用し、見守りの強化により行動を制止しないようにしている。不穏時などは、興味を別のところへむかうように話をするなど支援している。12月には、虐待についての外部研修参加を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、利用されている利用者様があり把握が出来ており、関係者の方とは、月に1度は話し合いをしている。成年後見制度については、利用がなく研修等が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は契約書に基づき実施、解約時は、状況に応じ御家族と話し合い円滑に遂行できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、又、苦情等の外部者への通報連絡先も玄関に掲示している。意見、苦情等があった時は、ミーティング等で、話し合い運営に反映させている。	家族の面会時に、直接意見を聞くようにしている。面会に来られない家族には、月に1回必ず連絡を行ない、様子を伝えながら意見を聞いている。意見があった場合には、週1回法人の管理者が集まる会議にて、意見報告・事故報告・入退職の連絡を行なっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を出してもらったり、気になっている事があったら、随時意見を出してもらい、記録し全職員で、状況、意見を把握してもらっている。	法人の各種委員会への参加や法人の祭りへの職員の出し物参加などを通じて、職員で話し合いコミュニケーションを図る機会があり、言いやすい雰囲気がある。職員からは、休憩時間確保の意見が出され、話し合いを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員が向上心をもって働けるように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアセンター内で、研修会を定期的に持ち参加しやすい様になっている。又、都合のつく限り外部の研修への参加を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修や他部署への交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と利用者様の関係を把握し、不安に感じていることに対し随時相談できる環境に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者様の関係を把握し、不安に感じていることに対し随時相談できる環境に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の両方から話を聞き、利用者にとって必要とされる支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性を活かし、「一人の人間として生きている。」を頭に置き、日常生活に必要な事柄をサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム便りを2ヶ月に1度発行し、家族への情報発信手段としている。又、通院などに係わりをもって頂くと同時に、衣類などの入れ替えなども大切な関わりとの一つと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や、知り合いの面会など、面会時間を決めておらず、随時対応している。	家族との関わりを大切に、衣類の入れ替えなどの機会には連絡をとり、関わってもらえるように働きかけている。昔からの馴染みの神社へは、状況により歩くことは難しいなか、皆で車窓からお参りできるよう車で出掛けている。その他、会話から法人の他の事業所利用者が同級生と分かった場合には、話をする機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見つつ、距離感を保ちながら良い人間関係を築けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所などになられた方には、面会に行き、関係性を切らない様にし退院時の方向について相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人、家族に確認している。又、入居後もモニタリング等で、随時確認をとっている。	利用者の思いも、ADL(日常生活動作)や認知症レベルにより変わること理解し、衣類の整理を職員と一緒にこなっていた方も興味関心事ではなくなったことから検討するなど、以前できていたことや好きであったことに固定せずに無理強いしないように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、他事業所、家族からの聞き取り等で、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス、モニタリング、申し送り等で現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について本人、家族からの聞き取りをし、医療関係者からの意見、介護職員からの意見を総合しケア計画を作成している。	利用者の担当職員を決め、担当職員を中心に、毎月のミーティングで全職員で話し合い、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行ない、計画は半年に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言葉等をケース記録に記入し、申し送りノートやカンファレンスを活用しながら情報を共有し、ケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方と相談しながら、個別の要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が地域の中で安心して暮らして頂ける様、民生委員・区長さん・有識者や地域の派出所・消防署に協力してもらっている。近所の中高生のボランティアが定期的に来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重している。又、個々の状態によって往診にて対応している。	事業所の協力医による往診について説明し、これまでのかかりつけ医を継続受診したり、協力医に変更したりして、希望を尊重している。緊急時の受診は、家族の対応が困難な状況を考慮しつつ、利用者の状態がよくわかる事業所が対応する姿勢で、家族には電話で報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による定期訪問を週1回実施、又、体調の変化等は、その都度連絡し訪問して頂き、主治医との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係との情報交換、関係作りに訪問看護も携わり、経過の伝達や情報交換を行い、適切なケアの提供やサポートを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化、終末期について家族と話し合っており、十分な説明も行っている。医療関係者、家族と連携を密に取ながら、終末期に取り組んでいる。	看取りを行なうことは事業所の使命として捉えており、契約時、家族に方針を説明している。管理者は、経験にまさるものはないと考え、そうした事態には、職員が落ち着いた行動をとれるよう指導している。また、最後には全職員に声をかけてできるだけ見送るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には、グループ協会が行う研修に参加してもらったり、全職員を対象とした急変、事故発生時の対応訓練などを定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回、昼夜想定で避難訓練を行行っているが、地域の方の参加は出来ていない。	年1回法人の他施設と合同で消防署の指導のもとに避難訓練を行い、年2回は事業所単独で行っている。訓練は、出火場所や想定を変えて行っている。飲水・お粥3日分のほか、利用者の写真と薬がわかるような書式を用意している。災害時の地域の協力の必要性を感じているが、働きかけには至っていない。	災害時など万一の不測の事態に備え、地域の方々への理解や協力を呼びかけ、地域住民と相互に協力する体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない声掛け、対応に注意している。	日常生活のなかで、わからないことやできないことで不快な思いをしないように、誇りを損なうことのないようにサポートやレクリエーションの組み立てをしている。また、失禁などのときには、騒がないよう対応に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き、その人らしく生活が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを基本とし、その中で個々のその日の状態に合わせて過ごせるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐな服装をしている時には、さりげなく誘導し、更衣を促す。朝のケア時にはホールに出て来られる前に鏡を見て頂く様になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞きながら献立を考へ、手作りおやつなどを一緒に作ったり、食事の下ごしらえ、味見などをして頂いている。個々の状態に合わせて、出来る事は職員と一緒に行うようにしている。	献立は、利用者の好みを聞き前後のメニューとのバランスを考え、作成している。利用者は、野菜の下ごしらえや食器洗浄などできることを職員と一緒にしている。管理者は、利用者がおいしく食べられるように、味覚にあわせて味をつけるように指導している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間の献立を考へ、定期的に体重チェックを行い、食事の量や水分を十分に摂取できるよう支援している。個別に主食・副食の形態は変更し、飲料はとろみなども使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて歯磨きをして頂き、個々の状態に合わせて介助し、自力にてうがい、義歯を洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや、トイレ誘導を行なっている。トイレでの排泄が続けられるよう、下肢の筋力低下の予防に努めている。	毎日のラジオ体操やストレッチによる下肢筋力低下予防や乳酸飲料の摂取により、トイレでの排泄が続けられるよう取り組んでいる。個々の排泄パターンは、水分摂取量や気温などにも影響を受けることから、日々の生活のなかでのパターンをもとに声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取っていただき、野菜・食物繊維・乳製品を、食事に多く取り入れるよう心掛け、毎朝ストレッチ体操を行い、腸の動きをよくするようにしている。排泄困難な方に対しては医師の指示のもと、下剤の使用で対応する場合がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴日は、時間を決めずゆっくり入れるよう支援している。又入浴日以外でも清潔支援が必要とされる時は、対応している。	現在入浴を嫌がる方はいないが、そうした場合には、利用者ごとに状況に合わせた理由を説明し、入浴へと促している。一番風呂に入りたい希望には入浴の順番を変更したり、衣類の間違えで不快な思いをしないように名前を記した札を作ったりして、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や夜間の睡眠の状況を勤務職員で共有し、必要な時には昼寝を促したり、休憩を取っていただいたりしている。不眠状態が続く時には、主治医と連携をとり安定剤の使用を検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が処方した薬名、目的、副作用は、その都度申し送りノートで、共有している。必要な情報は再度、カンファレンスや申し送りノートを使用し、職員が共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いがある生活が送れる様に、個々の生活歴や、能力に応じた役割を担ってもらっている。本人が望む気分転換が図れる環境作りや支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の駐車場や、近所を散歩したり、天気の良い日にはドライブに出掛けている。季節ごとの花見やフルーツ狩りを実施している。法事やお墓詣りなども家族と相談しながら支援している。本人の希望で、外食なども実施。	ADL(日常生活動作)の変化に伴い、外出への意欲や希望が少なくなっているが、外気に触れることを大切に考えて事業所の駐車場で皆でお茶をしている。無理のない季節の花見や個人の希望に沿って衣類や小物の買い物に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており、本人が必要としている物がある場合一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたたり、手紙を出したり受け取ったりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じながら心地よく過ごせるように、職員手作りのペーパーフラワーを飾ったり、換気や明るさ、室温などに気を配っている。	事業所の玄関には、職員手づくりのお月見の飾りが掛けられ、季節によって変えている。居間兼食堂は、夏には日よけをしたり、家族の声を受けて外したりと、調整に努めている。また、職員の意見をもとに、定期的な環境美化に取り組み、清潔な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座る際、気の合う同士が近くに座れるよう工夫し、ソファを置きくつろげる場を設けたり、一人で過ごしたい方に対しては自室ですごしていただいたり、その人にとって心地の良い場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で愛用していた筆筒や、小物等を持ち込み、各居室共、趣のある生活空間となっている。また、レクリエーションで作った作品等を飾っている。	居室には、入居当時に愛着のあったミシンや馴染みのあるベッドやダンス等の家具が設置されている。畳敷きの部屋は利用者が座ることはなくなったが、家族等来訪者が座り、利用者との時間を過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室がわかるようにネームプレートや飾り物を置いている。各居室からウッドデッキに出られるようになっており、日光浴や、洗濯物を干したり出来るようになっている。		